各国のテレビ事情 (II)

—西ヨーロッパ—

NHK 総合放送文化研究所 村 井 仁

1. 概 説

西ヨーロッパのテレビ放送事情を説明せよ、といわれてもなかなかむずかしい。カラー放送を実施している、ニュース・報道番組やドラマを放送している、学校放送もある、と書き並べたところで、“それでどうした”ということになるだろう。そこで話を逆にして、西ヨーロッパのテレビと日本のテレビはどこが違うかを示すために、表1を作ってみた。

最初に、この表について補足説明をしておきたい。イギリスは1936年に走査線405本方式でテレビ放送を始めた。この放送は1939年9月、第2次世界大戦の開始とともにいったん中止され、戦後の1946年6月に再開された。走査線は依然として405本であったが、イギリスでは1969年11月以来、これをヨーロッパ大陸の標準である625本方式に切り替える作業が進められている。

1938年に始まったフランスの走査線445本方式テレビ放送も、第2次世界大戦によって中断された。再開は1945年10月だが、このときに走査線を441本に変更した。現在でも第1テレビが使っている走査線819本方

式の放送が始まったのは、1949年12月である。その後、に発足した第2テレビと第3テレビは、いずれも走査線625本方式を採用している。

西ドイツでは、1937年に走査線441本方式のテレビ放送を始めたが、1943年11月のベルリン空襲でテレビ放送局の活動は停止した。戦後になって、現行の走査線625本方式テレビ放送が本格的に始まったのは1952年12月で、ハンブルクの北ドイツ放送協会の手によるものである。

イタリアでは、第2次世界大戦前のテレビは実験放送（走査線441本）だけで1954年1月になってから走査線625本方式で本放送を始めた。

次に、“一般番組放送時間”というのは、わが国のNHK教育テレビが放送している初中等学校向け教育番組や、イギリスの「公開大学」番組など、正規の教育課程の一部となっている番組を除いたもの。つまり、普通の視聴者が情報、教養、娯楽を求めて見ようとするテレビ番組のことである。放送局によっては、昼間に短時間のニュースや幼児向け番組、外国人労働者などの特殊視聴者向け番組を放送しているところもあるが、これも1

表1 主要国のテレビ放送現況（平日）

	放 送 開 始		カラー放送開始	首都圏ch数	一般番組放送時間	2系統以上視聴可能時間
	走査線400本以上	現方式				
イギリス	1936 (405本)	同 左	1967 (PAL)	3	12:00~24:20	13:00~14:00 14:50~24:00
フランス	1938 (445本)	1949 (819本)	1967 (SECAM)	3	12:30~13:30 18:20~23:30	19:00~23:20
西ドイツ	1937 (441本)	1952 (625本)	1967 (PAL)	3	16:15~24:00	17:30~23:30
イタリア	—	1954 (625本)	—	2	12:30~14:00 18:15~23:15	21:00~23:15
日 本	—	1953 (525本)	1960 (NTSC)	7*	06:00~02:00	06:30~02:00
アメリカ合衆国	1939 (441本)	1941 (525本)	1954 (NTSC)	9**	06:20~06:00	07:00~04:00

*: NHKのUHF実験局および県域UHFテレビ局を除く。

** : ニューヨーク市の例だが、周辺地域の置局状況により受信可能チャンネル数は異なる。

“Television in the World (II); Western Europe” by Hitoshi Murai (NHK Radio & TV Culture Research Institute, Tokyo)

日の番組の中では特殊な例なので、ここでは算入していない。“2系統以上視聴可能時間”というのも、このような一般視聴者向け番組の中で、視聴者がどの程度選択の自由を持っているかを、放送時間量で示したものである。

そのうえヨーロッパ諸国のテレビ放送時刻表は、わが国やアメリカ合衆国と違って、時間がきちんと決まっている。平日と週末を比較すると、後者のほうが放送時間がはるかに多い。定時番組であっても、開始と終了の時刻、あるいは1回の放送時間は年中変動している。毎日の放送終了時刻に1時間程度のずれがあることも普通である。したがって“一般番組放送時間”と“2系統以上視聴可能時間”は、平日のテレビ放送について一応の目安を示したものとご理解いただきたい。

筆者はこの稿の冒頭で、西ヨーロッパのテレビと日本のテレビとの違いを示したいと述べた。表1からすぐわかるように、日本とアメリカ合衆国のテレビは非常によく似ている。これは走査線がともに525本であるとか、両国ともカラー方式としてNTSC方式を採用しているとかの技術面だけを論じているのではない。早朝から深夜まで放送していること、選択できるチャンネル数の多いことが何よりの特徴といえるだろう。このようにテレビ番組が豊富な国は、世界の中でも日本とアメリカ合衆国以外にあまり例がない。その意味で両国は、テレビにおける世界の先進国である。

それでは、西ヨーロッパはテレビの後進国か。イギリス、フランス、西ドイツは、第2次世界大戦前に走査線400本以上の技術方式でテレビ本放送を始めている。その点で先進国であることは間違いない。他方、選択可能なチャンネル数、放送時間数、カラー放送の開始時期においては、日本とアメリカ合衆国の後塵を拝している。

そしてこの3つの点が、ヨーロッパと日本のテレビの違いを最もよく示しているといえよう。西ヨーロッパでは、首都圏でさえも選択可能なチャンネル数は3系統しかない。その原因は、大部分の国で公営または国営の放送機関がテレビ放送を独占していることにありと思われる。現在、テレビ放送を実施している西ヨーロッパの20ヵ国の中で、この運営形態に該当しないのは公共、商業両テレビが併存しているイギリスと、商業テレビしかないモナコ、ルクセンブルク、マルタだけである。したがってテレビ放送機関の数が少なく、運用する番組系統数も限られてくることになる。

放送時間数が少ないのは、テレビ時代が隆盛期を迎えても“昼はラジオ、夜はテレビ”という考え方が確立しているからである。一般視聴者向けのテレビ放送が始まるのは、いずれも午後になってからである。2系統以上の番組を視聴できるのは、わが国でいうゴールデンアワ

ーに限られている。特にイタリアでは午後1時から4時までが昼休み。サラリーマンは、それから午後7時30分ごろまで仕事をしてから家路につくので、こうした生活時間に合わせて第2テレビは午後9時にならなければ放送を始めない。

テレビが朝のニュースを放送しないことも、不思議に思われるかもしれない。しかし、ラジオのニュースと新聞があれば間に合うのであって、この考え方は現在でも変わらない。こうした状況だから、時計がわりにテレビをつけておくとか、家庭の主婦が昼間からテレビの前にどっかりと腰をおろすといった習慣もない。わが国やアメリカ合衆国のように、テレビが家庭生活の中に朝から夜中まで浸透したり、チャンネルを切り替えれば番組が次から次へと飛び出して来るのとは事情が違う。その意味では、ヨーロッパの人々はある一定の距離を置いてテレビと付き合っている。

カラーテレビの放送開始時期についても同じである。表2で示したように、ヨーロッパのカラーテレビは1967年に始まり、この年にイギリス、オランダ、西ドイツ、フランス、それに東ヨーロッパのソビエトが正式放送を始めた。その他の国はいずれも1968年以降で、イタリアをはじめとして、いまでもカラー放送をしていない国もある。カラーテレビ導入が遅れたのは、経済的理由もさることながら、ヨーロッパの連帯意識にも一半の原因があるといつてよい。というのは、西ヨーロッパの場合はユーロビジョン、東ヨーロッパの場合にはインタービジョンという各国を結ぶ地上回線のネットワークがあって、番組交流が盛んに行われている。

このため、カラー放送を始めるなら、その方式を統一したほうがよいというわけで、ヨーロッパ諸国が集まって会議を開いたが、PAL方式をとるか、SECAM方式をとるかで意見が分かれた。結局、1966年の会議でも結論が出ず、翌1967年にフランスとソビエトはSECAM方式で、残りの3ヵ国はPAL方式でカラー放送を始めることになった。ヨーロッパのカラーテレビ導入は、アメリカ合衆国とくらべて13年、わが国とくらべても7年遅れたわけだが、ほかの国がカラー放送を始めたから

表2 カラーテレビ本放送開始時期

1967	イギリス (PAL)、オランダ (PAL)、西ドイツ (PAL) フランス (SECAM)
1968	スイス (PAL)
1969	オーストリア (PAL)、デンマーク (PAL)
1970	アイルランド (PAL)、スウェーデン (PAL) フィンランド (PAL)
1971	ベルギー (PAL)、スペイン (PAL)
1972	ルクセンブルク (SECAM)

自分のところでも何とかしなければ、という意識はヨーロッパの場合にはあまりないようである。

以上、簡単ではあるが、わが国と比較した場合の西ヨーロッパのテレビの特色について述べた。次に、表1に掲げた主要国のテレビの現状を紹介しよう。

2. イギリス

イギリスのテレビは、わが国と同じように公共放送と商業放送の2本立てとなっている。公共放送の放送機関は、特殊法人のイギリス放送協会(BBC)。これはNHKとほぼ同じ性格の企業体である。一方、商業テレビは、規制監督機関のインデペンデント放送協会(IBA)と番組を提供する番組制作会社との二重構造になっている。IBAはBBCと同じ性格の特殊法人だが、番組制作会社は商業営利会社である。実際には、これらの番組制作会社が、わが国の民放テレビ各社に相当する。BBCはNHKと同様に受信料収入が唯一の財源で、広告放送を禁止されているが、商業テレビの財源は広告放送収入だけで、受信料収入は配分されない。

番組はBBCが2系統で、商業テレビは1系統。この商業テレビの運営方法はイギリス独特のものなので、補足説明をしておきたい。IBAは、イギリス全国を14地域に分け、それぞれの地域ごとに番組制作会社と番組提供の契約を結んで、放送権を与えている。法律の規定により、商業テレビの番組は原則としてIBAが提供するのではなく、番組制作会社が提供することになっているからである。しかし、首都ロンドンだけは広告放送収入が他の地域とくらべて格段に多いため、IBAは放送権を平日と週末とに分けて、2つの番組制作会社と契約している。各番組制作会社の名前と受け持ち区域は、次のとおりである。

(地 域)	(番組制作会社)
ロンドン	月曜～金曜19時 テムズ・テレビ 金曜19時～日曜 ロンドン週末テレビ
ミッドランド	ATV ネットワーク
ランカシャー	グラナダ・テレビ
ヨークシャー	ヨークシャー・テレビ
東部イングランド	アングリア・テレビ
東北部イングランド	タイン・ティーズ・テレビ
南部イングランド	サザン・テレビ
西南部イングランド	ウェストワード・テレビ
ウェールズおよび西部 イングランド	HTV
中部スコットランド	スコティッシュ・テレビ
イングランド・スコット ランド境界地方およ びマン島	ボーダー・テレビ
東北部スコットランド	グランビアン・テレビ
北アイルランド	アルスター・テレビ
チャンネル諸島	チャンネル・テレビ

商業テレビがこのような制度となっているのは、それぞれの地域の特色を生かしたテレビ番組が放送されるようにするためだが、イギリスのような小さい国で14地域の番組制作会社が1日分の番組を自分だけで制作するのは不経済な話だし、また、それだけの題材もない。このため、大部分の番組は14地域を結ぶネットワーク番組として放送されており、これらネットワーク番組の制作は主要都市にあるテムズ・テレビ、ロンドン週末テレビ、グラナダ・テレビ、ヨークシャー・テレビ、ATVの5社に集中している。つまり、各社ともこれら5社の制作するネットワーク番組を主体とし、それにローカル番組をつけて放送するという形をとっている。ニュースも、それぞれの番組制作会社が独自に制作するのでは取材能力に限界があるので、インデペンデント・テレビ・ニュースという別個の会社が設けられている。これは商業テレビのニュース専門会社である。

技術方式についても、イギリスでは走査線を405本方式から625本方式に切り替える作業が進められているため、複雑な形になっている。表1で示したとおり、第2次世界大戦前の1936年にBBCが405本方式(VHF)でテレビ放送を始め、戦後の放送再開時にもこれをそのまま踏襲した。商業テレビが放送を始めたのは1955年だが、このときもBBCと同じ405本方式(VHF)を採用した。ところがその後、625本方式のほうが画質もすぐれているから、イギリスのテレビはすべてこの方式を採用するという方針が決まった。1964年に放送を始めたBBC第2テレビは、当初から625本方式を使っている。しかもVHF帯は既存のBBC第1テレビと商業テレビの放送で周波数の余裕がなかったため、BBC第2テレビはUHF帯を使用した。

走査線方式の切り替えは、BBC第1テレビと商業テレビを、405本方式(VHF)と625本方式(UHF)で同時放送するという方法で1969年から実施されている。これは405本方式の受像機がまだかなり多く使われているためで、数年後にこれら旧式受像機の耐用年数が過ぎた時点で405本方式放送を打ち切り、VHF帯を625本方式放送のために再編成する。政府はこの走査線方式切り替えを促進するため、カラー放送は625本方式だけで実施している。したがって、405本方式だけ受信可能な受像機を持っている視聴者は、BBC第2テレビを受信することができないばかりでなく、BBC第1テレビと商業テレビのカラー番組もモノクロでしか受信することができない。

BBCテレビの番組は、第1テレビ、第2テレビとも教育、教養、報道、娯楽の各分野を含む総合放送で、わが国のNHKのように総合テレビと教育テレビとを合

きり区別するやり方とは異なる。しかし第2テレビのほうが、少数視聴者向け番組や実験的な番組を放送することが多い。

第1テレビの平日の放送開始は午前9時30分ごろだが、午前中は学校放送だけである。正午すぎにニュース、ウェールズ語番組などが約1時間放送されて、午後2時は再び学校放送となる。児童番組も含めて一般視聴者向けの番組が本格的に始まるのは午後3時前後で、放送終了は午後12時ごろである。土曜と日曜は、放送開始時刻が午前9時前後に繰り上がり、休止時間も平日より少ない。

第2テレビでは、平日は午前11時から30分程度の幼児向け番組があって、夕方まで休止。午後5時すぎに「公開大学」番組で再開するが、一般視聴者向け番組が始まるのは午後7時30分のニュースからである。土曜と日曜は午前中に「公開大学」番組を放送し、通常の番組は午後1時ごろから始まる。放送終了は午後11時30分ないし12時だが、土曜は映画を午前1時ごろまで放送する。

商業テレビも総合編成で、平日の放送開始は午前9時30分。しかしBBC第1テレビと同じく、午前中は学校放送である。正午前後から一般視聴者向けの番組に移り、放送休止時間はない。土曜と日曜は、午前9時ごろから通常の番組を放送する。放送終了は午後12時30分ないし午前1時で、BBCよりもいくらか遅い。

3. 西 ド イ ツ

西ドイツでは公営放送機関がテレビ放送を独占しているが、連邦国家であるため、これを反映してこの放送制度もかなり複雑である。テレビ放送機関は、州を基盤とした9つの地域放送協会と、全国向け番組を放送するために設立された第2ドイツ・テレビジョン協会(ZDF)の2つに分かれる。しかし、イギリスの商業テレビ番組制作会社の場合と同様、地域放送協会がそれぞれ個別に番組を制作したり、編成したりしても不経済なので、西ドイツ放送連盟(ARD)という連合体を組織している。ZDFは、ARDに加盟していない。このARDの編成するネットワーク番組が第1テレビである。だが第1テレビは、1日中ネットワーク番組を流しているわけではない。午後6時から8時までの時間帯は、ローカル番組の放送にあてられ、各地域放送協会が独自に番組を編成する。

第2テレビは、ZDFの提供する全国番組で、これにはローカル番組はない。第3テレビは、各地域の放送協会が単独で実施したり、または地域ネットワークを組んで提供しているローカル放送である。つまり、地域放送

協会にしてみれば“第2テレビ”なのだが、発足時期がZDFの第2テレビよりも遅かったために、第3テレビと呼ばれている。技術方式はいずれも走査線625本。第1テレビは原則としてVHFを使用し、第2テレビと第3テレビは、ともにUHFだけを使っている。ARDに加盟している9つの地域放送協会の名称と本部所在地は次のとおりである。

西部ドイツ放送協会(WDR)	ケルン
北ドイツ放送協会(NDR)	ハンブルク
バイエルン放送協会(BR)	ミュンヘン
南西ドイツ放送協会(SWF)	バーデンバーデン
南ドイツ放送協会(SDR)	シュトゥットガルト
ヘッセン放送協会(HR)	フランクフルト
自由ベルリン放送協会(SFB)	西ベルリン
ザール放送協会(SR)	ザールブリュッケン
ブレーメン放送協会(RB)	ブレーメン

このうち規模の大きいのが、WDR、NDR、BRの3協会、ARDネットワーク番組(第1テレビ)の中のかなりの部分(およそ60%)を制作している。このほか、番組種目別による専門化傾向も見られ、ニュースはNDR、スポーツ週刊トピックスはWDR、天気予報はHRがそれぞれ編集して全国に向けて送出している。第2テレビを放送しているZDFの本部はマインツにある。

各系統の番組の性格は、第1テレビと第2テレビがともに総合放送、第3テレビは教育・教養番組専門である。第1テレビの放送開始時刻は、平日が午後4時すぎ、土曜が午後2時前後、日曜が午前10時前後。放送終了はだいたい午後12時ごろである。先に述べたとおり、午後6時から8時までの2時間はローカル番組の時間帯で、広告放送もこの時間帯に行われる。広告はスポット広告だけが許され、時間量も1日最大20分と制限されている。また日曜と祝日の広告放送は禁止されている。商業放送局が少ない西ヨーロッパでは、公営の放送機関が広告を放送している例が多いが、わが国やアメリカ合衆国とくらべて広告に対する規制ははるかにきびしく、広告であることがすぐにわかるような形で放送されている。

第2テレビの放送開始は、平日が午後5時前後、土曜が午後2時前後、日曜は午前10時前後で、第1テレビの場合とほぼ同様である。放送終了は午後11時ごろだが、土曜だけはこれよりもいくらか遅い。広告放送が午後6時から8時までの間にスポット形式で実施されていること、広告放送の最大量が1日20分間に制限されていることも、第1テレビと同様である。第3テレビの放送時間は地域によって異なり、また曜日により一定していない。しかし午前中は9時ごろから1時間程度放送し、いったん休止して夕方から午後10時ごろまで放送することが多いようである。

カラーテレビは、西ヨーロッパ諸国で広く採用されている PAL 方式の本国本元なので、3 系統のテレビはいずれもカラー放送を実施している。

4. フ ラ ン ス

フランスと次に紹介するイタリアの放送運営形態は、イギリスや西ドイツの場合にくらべると簡単である。これら両国では、単一の公営放送機関がテレビ放送を独占しているからだ。

フランス放送協会 (ORTF) は、3 系統のテレビ番組を放送している。技術方式は、第 1 テレビが走査線 819 本 (VHF)、第 2 テレビと第 3 テレビは、いずれも 625 本 (UHF) である。カラー放送は、第 2 テレビと第 3 テレビで実施されている。これはフランス政府が、近い将来に第 1 テレビも走査線 625 本方式に切り替える計画をもっているからで、この計画が実行に移されれば、第 1 テレビもカラー化することになる。番組の性格は第 1 テレビと第 2 テレビが総合編成。しかし、1972 年末に第 3 テレビが発足してこのチャンネルに教養番組を移して以来、第 1・第 2 テレビはともに娯楽的色彩が少し強くなっている。第 3 テレビは、教養番組と音楽番組を主体にしているが、地方局の制作した番組を大量に取り入れている点に特色がある。

平日の第 1 テレビの放送開始は、午前 9 時ないし 10 時だが、午前中は学校放送にあてられている。ついだ正午すぎから 1 時間ほど一般視聴者向け番組が放送され、午後 2 時すぎから 4 時ごろまでは再び学校放送となる。しかし、学校放送がないときには、午後のこの時間帯で劇映画やスポーツを放送することもある。夜の一般視聴者向け番組は、午後 6 時 30 分前後に始まり、放送終了は午後 11 時すぎとなっている。日曜の放送時間は、午前 9 時前後から午後 11 時ごろまでで、途中に放送休止時間はない。一方、第 2 テレビでは、平日は一般視聴者向け番組が午後 4 時に始まるが、約 2 時間でいったん休止する。再開は午後 7 時で、土曜と日曜はこれよりもいくらか早い。放送終了は午後 11 時前後。このチャンネルにはカラーテレビの特性を生かした娯楽番組が多いが、政治番組も放送している。発足してからまだ日が浅い第 3 テレビは夜間だけの放送で、午後 7 時ごろから 10 時前後まで。全番組がカラー化され、1 時間 30 分という長時間番組もある。

5. イ タ リ ア

イタリアのテレビ放送機関は公営のイタリア放送協会 (RAI)。RAI は、国の投資機関が株式の 90% 近くを直接、間接に支配している特殊株式会社である。第 1 テレ

ビ (ナツィオナーレ) と第 2 テレビの 2 系統のテレビ番組を放送している。両系統とも総合編成で、走査線は 625 本方式。第 1 テレビは VHF、第 2 テレビは UHF を使用している。

第 1 テレビでは、平日は午前中に学校放送があつて、午後 0 時 30 分から 2 時まででニュース、天気予報などの一般視聴者向けの番組を放送する。学期中は午後にも学校放送を実施しているが、夜の一般視聴者向け番組が始まるのは午後 6 時前後で、午後 11 時ごろまで放送を続ける。フランスと同じく日曜には放送休止時間がない。第 2 テレビは、サラリーマンが帰宅した午後 9 時から 11 時 30 分ごろまでの夜の放送。両系統を通じて RAI が最も力を入れているのはドラマである。また成人教育番組も重視しており、科学、法律、国語などの科目をとりあげている。

イタリアでは、まだカラーテレビを放送していない。これは西ドイツの開発した PAL 方式をとるか、フランスの開発した SECAM 方式を採用するかについて、政府が態度を決めかねているからである。このため 1972 年夏のミュンヘン・オリンピック大会の際には、PAL と SECAM の両方式を交互に使って競技の模様を中継するという変則的な実験を行った。しかし、西ヨーロッパ諸国間のテレビ中継網であるユーロビジョンのニュース交換では、RAI は PAL 方式を使ってカラーのニュースを送出している。

6. その他の諸国

以上、イギリス、西ドイツ、フランス、イタリアの 4 ヶ国についてテレビ放送の現況を紹介したが、こうした事情はだいたいにおいて他の西ヨーロッパ諸国にもあてはまるといってよい。先に述べたように、公営の放送機関がテレビ放送を独占している国が多いし、さらにまた人々の生活の態度や習慣の面でも共通の要素が多いからである。しかし、誤解を避けるために、テレビ放送の開始時期について一言しておきたい。

表 1 では、イタリアを除く 3 ヶ国がいずれも第 2 次世界大戦前に高精細度のテレビ本放送を始めているが、これが通例というわけではない。そこで、現在テレビ放送を実施している西ヨーロッパ 20 ヶ国の放送開始時期を表 3 にまとめてみた。この表からわかるように、西ヨーロッパでもテレビ放送が盛んになったのは 1953 年以降であり、半数以上の 12 ヶ国が 1950 年代に集中している。この点はわが国と同じである。

テレビ放送を実施していないのは、アンドラ、バチカン、リヒテンシュタイン、サンマリノの 4 ヶ国だが、これらはいずれも面積がきわめて小さな国で、隣接国の放

表 3 テレビ放送開始時期

1936	イギリス (1939 中止)
1937	西ドイツ (1943 中止)
1938	フランス (第 2 次大戦で中止)
1945	フランス (再開)
1946	イギリス (再開)
1951	デンマーク
1952	西ドイツ (再開)
1953	ベルギー
1954	イタリア, オランダ, モナコ
1955	ルクセンブルク
1956	スペイン, フィンランド
1957	スウェーデン, ポルトガル, オーストリア
1958	スイス
1960	ノルウェー
1961	アイルランド
1962	マルタ
1966	アイスランド
1970	ギリシャ

送を受信している。そして、狭いところに多くの国がひしめているヨーロッパでは、外国のテレビ放送がかなりよく受信できることも、ひとつの特色といえよう。言語が障害にならない場合もある。たとえば、オーストリア

の国語はドイツ語だし、スイスの公用語はドイツ語、フランス語、イタリア語の 3 つ、ベルギーの場合はフランス語とオランダ語の 2 つである。このため西ヨーロッパ諸国で発行されている番組紹介雑誌は、自国の放送番組だけでなく隣接国の番組も掲載している。

最後に、いままでの説明と重複する面もあるが、表 3 の諸国についてテレビ番組の系統数を紹介しておこう。3 系統はイギリス、西ドイツ、フランス、スイスの 4 カ国。ただし、スイスは特殊な例で、3 つの公用語についてそれぞれ 1 系統だから、実質的には 1 系統ということになる。2 系統放送はイタリア、オランダ、スペイン、スウェーデン、ポルトガル、オーストリア、フィンランド、ベルギーの 8 カ国。ここでもベルギーは特殊例でフランス語とオランダ語が 1 系統ずつである。残りの 8 カ国は、いずれも 1 系統のテレビ放送を実施している。

(昭和 48 年 12 月 18 日受付)

(注) 脱稿後、わが国や西ヨーロッパ諸国はエネルギー危機のためにテレビ放送時間を若干短縮した。本稿でとりあげたデータは、それよりも前の平常状態のものである——筆者。

今月の表紙

TK-308 放送用小形カラーカメラ装置

本装置は、放送番組の多様化に伴ないすべての目的に合わせられる放送用カラーカメラとして開発したものである。特に細芯で軽量なカメラケーブルと、超小形 CCU を組合せ、単独使用、複数台使用、有線コマンド時や無線コマンド時の使用など、すべてに簡便であり、経済的にできている。

単独使用の場合：1 台のカメラを駆動し取材する場合と中継車搭載カメラ台数の不足を補う。

複数台数使用時：単独使用の場合より、色合せ、アイリス、ペダスタル等の操作性が向上するように各制御をコントロールパネルに引出し、DC 制御によるリモコン化を図ってある。

有線コマンド時の使用：カメラヘッドから基地局の距離が、300 m を越える場合や僻地での使用の場合、基地局で G チャンネルのペダスタルゲインを除く、すべてが制御でき、カメラ側からは映像出力インカム、音声プログラムが一本の同軸ケーブルで多重伝送できる。

無線コマンド時の使用：前項における基地局からの制御 (VF の送り返しを除く)、カメラからの映像等が、SHF と UHF により双方向化される。

その他機能上は、レンズズーミングと共にデテール補正量を自動的に変えられること、カメラヘッドにマイクアンプを内蔵し、音声系統を組込んだこと、アンチコメットテールブランピコン管も採用可能なこと等、種々の特長を付加している。

東京営業所 〒 105 港区新橋 1-8-3 住友新橋ビル
TEL. 03-572-5311 (代)

池上通信機株式会社